

東京の地下鉄の運営改革会議（第2回） 議事要旨

1. 日時

平成26年1月31日（金）17時30分～18時00分

都庁第一本庁舎33階南塔特別会議室S1

2. 出席者

国土交通省：鉄道局長（代理）羽尾官房審議官（鉄道）、堀内都市鉄道政策課長

東京都：副知事（代理）佐野都市整備局理事、牧野地下鉄改革担当部長（事務局）

交通局長（代理）塩見交通局次長、広瀬企画担当部長

東京地下鉄（株）：代表取締役社長（代理）入江鉄道本部長、米鉄道統括部長

3. 議事概要

○資料（東京の地下鉄のサービスの改善・一体化等の取組状況）について、事業者を代表して東京地下鉄（株）から説明された。

○また、本日とりまとめた内容に基づき、両地下鉄事業者間で引き続きよく連携しつつ、サービスの改善・一体化等を進めていくことが確認された。

○その他、出席者より以下の発言がなされた。

（羽尾官房審議官（鉄道））

- ・昨年、訪日外国人1000万人を達成したが、旅行者向け共通乗車券のような外国人観光客にも喜ばれるような取組を続けてほしい。
- ・昨年7月に本運営改革会議を立ち上げて以降、実務者間による検討を通じて、中間とりまとめとして一定の進捗を出せたことは大変有意義である。今後も、両地下鉄それぞれの実務の立場を踏まえながら、東京の地下鉄の利用者の利便性向上に向けた努力を継続することが重要である。

（佐野都市整備局理事）

- ・サービスの改善・一体化の取組に終わりはない。バリアフリーの充実やホームドアの整備のほか、人的交流を初めとする運営の連携についても着実に推進してほしい。
- ・本日とりまとめた内容に基づき、利用者目線に立ったサービスの充実を推進することなどにより、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、首都東京にふさわしい地下鉄を実現していきたい。

（塩見交通局次長）

- ・交通局は、東京の地下鉄13路線のうち4路線を担当しており、東京メトロとともに首都圏のモビリティをマネジメントできる立場にある。
- ・また、バス事業もあわせて経営を行っており、こうした強みも活かしつつ、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、より一層東京メトロと連携し、お客様の視点に立った更なる取組を進めていきたい。

（入江鉄道本部長）

- ・東京の地下鉄は、東京に集う人々の生活や経済活動を支える大きな役割を担っており、また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催により、世界中からお客様をお迎えすることとなる。
- ・東京メトロとしても、改めて足元からサービスを見つめ直すべく総点検を実施し、都営地下鉄と一層連携を深めながら、更に質の高いサービスを提供していきたい。